

令和5年7月25日

令和5年度 総務経済委員会行政視察報告書

伊豆市議会総務経済委員
杉山 武司

視 察 日 程 令和5年7月12日(水) ～ 14日(金)

視察先及び目的 宮城県・岩手県方面

- (1) 7月12日(水) 宮城県東松島市
 - ・東松島市震災復興伝承館(JR仙石線旧野蒜駅)及び周辺の復興状況
- (2) 7月13日(木) 岩手県矢巾町
 - ・フューチャーデザインの手法を活用した水道料金改定
- (3) 7月13日(木) 岩手県釜石市
 - ・震災復興後の持続可能な観光地づくり
 - ・釜石の奇跡の記録を残した「命をつなぐ未来館」
- (4) 7月14日(金) 岩手県盛岡市
 - ・ニューヨークタイムズで「2023年に行くべき52カ所のロンドンに次2番目」に選ばれた街づくり

視 察 行 程

7月12日 修善寺駅==三島駅==東京駅==仙台駅==
仙石東北ライン==野蒜駅==奥松島クラブハウス==
東松島市震災復興伝承館==野蒜駅==仙台駅==盛岡

7月13日 盛岡==矢巾町役場==釜石市(株かまいしDMC
事務所)==市内視察==盛岡

7月14日 盛岡市役所==盛岡駅==東京駅==三島==修善寺

令和5年度の行政視察は、東日本大震災から12年を経た被災地の観光面からの復興状況や、住民生活にとって重要な社会インフラである水道施設の維持管理を住民自らが、フューチャーデザインの手法を用いて意見を出し合い未来に向けた解決に至るまでの住民の係わりがどのようなものだったか。更に、魅力ある街の創造に欠かせないものは何なのか、その魅力を盛岡はどのように見出したのかそのヒントを探るための視察であった。

行程中は好天に恵まれ有意義な視察となり、今後の議員活動に役立つものと感じた。視察内容については以下に記述する。

1. 東松島市



新野蒜駅

東松島市震災復興伝承館(旧野蒜駅)

新しく高台移転した JR 仙石線の野蒜駅に到着し、東松島市から今回の視察が始まりました。東松島市の公用車で奥松島クラブハウスに移動し復興状況のレクチャーを受けました。



奥松島クラブハウスの外観とレクチャーの様子

東松島市の人口は令和5年4月1日現在、38,683人で平成17年4月1日の合併から18年を経過、本年の一般会計当初予算は228億5,600万円で特別会計下水道会計を含めると344億6,374万5千円となっている。

東松島市の震災の被害状況は、野蒜海岸で津波による浸水高は10.35mで、浸水面積は市の全体面積102km²の36%に当たる37km²内住宅地の被害は65%に及んだ。人的被害は死者・行方不明者合計で1,133人(全住民の3%)家屋の被害は全世帯の73%の11,073棟で、避難者は最大1万5,185人に及んだ。市では、「復興」を目指す新たな計画として、単なる復興ではなく「復興まちづくり計画」と「環境未来都市構想」の二つの計画を同時に進め、持続的に発展する「東松島市」の実現をめざし、まちの将来像として①災害に強く安全なまち②安心して笑顔で暮らせるまち③産業を育て働く場をつくるまちの、3本柱を掲げた。

東松島の自治の市民力が災害時に機能し、壊滅的な被害を受けた東松島市において大きな役割を果たしたのは地域の「絆」 その一部を下記に記す。



東松島市の特徴的な取組として、「東松山方式」の災害廃棄物のリサイクルがあげられる。震災がれき発生量は、東松島市で発生する一般廃棄物の110年分に相当する109万8000トン、この97%をリサイクルした。

全量リサイクルした津波堆積物は216万800トン、災害廃棄物全体リサイクル率は実に99.22%となった。



このように、市民全体で災害復興に取り組み内閣府が推進する「SDGs 未来都市」に令和元年6月選定された。

世界に伝える東松島市の経験は、被害(災害)先行型の後追い対策から事前対策型(事前復興型)の防災・減殺対策へと変化を遂げようとしている。

見習うべき点は数多くあると感じた。

2. 矢巾町

矢巾町は、盛岡市の南に隣接する人口は 27,368 人(令和5年6月1日現在)で、町の総面積は 67.32 km²で稲作に適した自然条件をそなえた県央の穀倉地帯である。盛岡市のベッドタウンとしての開発が進み、過疎化が深刻な岩手県において滝沢市・北上市と共に人口増加が進む自治体である。平成 22 年国勢調査によると人口密度は岩手県下で、2019年9月には病床数 1,000 床、手術室 20 室を備える国内最大級の岩手医科大学付属病院が町内に開院した。

そのような矢巾町で平成24年に水道事業の見直しが始まった。当時、町の水道は設備 50 年超を経過し老朽化が進み水道管の更新が喫緊の課題が顕在化した。

それに対応するために必要な原資をどうするのか、結果水道料金の値上げをせざるを得ない状況となった。水道事業のコスト構造は固定費が概ね 95%で人口が 50%減の世帯数になると水道料金は今の2倍の水準となるのが、水道事業の実態である。



老衰した水道管の漏水の元凶

平成26年10月矢巾町の水道事業の取組がNHKのクローズアップ現代で取り上げられた。これを機に大阪大学の原圭士郎先生から連絡があり、フューチャーデザインを知ることとなった。平成28年に町は水道事業経営戦略策定でフューチャーデザインを実施した。その間水道サホーターワークショップを開催し、住民参加の双方向コミュニケーションを図った。しかし水道事業の社会的ジレンマは水道料金の値上げには非協力的行動に走る。住民に水道事業の実態を知ってもらい、水道事業の知識を得る行動に参加してもらい、信頼を得、合意形成に繋げ。このような手法を用いて水道料金の改定を実現した。



ワークショップの様子

矢巾庁舎レクチャー

3. 釜石市

釜石市は、岩手県南東部に位置し、世界三大漁場の一つ北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場と典型的なリアス式海岸を持つ市である。近代製鉄業発祥の地であり、最盛期の人口は9万人を超えた。西を北上山地などに囲まれ、東を太平洋に囲まれている。平野部は少なく、可住地面積も多くない。市の人口は30,134人(令和5年6月1日現在)、市の総面積は440.34 km²で鉄と魚とラグビーのまちである。東日本大震災では、1,060名が犠牲となった。

釜石市の観光振興ビジョン「釜石オープン・フィールド・ミュージアム」は、観光に関連した実にユニークな仕掛けで、「釜石オープン・フィールド・ミュージアム」は、釜石のまち全体を「屋根のない博物館」と見立てる観光コンセプトで、このコンセプトの下でこの「博物館に展示する宝」として、主に地域の日常生活や仕事を紹介する体験型のプログラムを開発しこれに参加することで、プログラムを通じて釜石を訪れた人々は、市内の農家、漁師、林業を営む方々や地元企業の経営者、市の職員らと出会い、彼らの日常生活や仕事、震災からの復興の過程の話などを聞くことが可能となった。

観光客の方々は、地元の人たちの暮らしに興味を持ち、釜石の人や土地の魅力に気づき、地域の住民は、自分たちが魅力的な技術や貴重な経験を持っていることを再認識することができます。結果的には、地域の人たちの住みつづける誇りや郷土愛の成長を促すことにも繋がり、更には釜石の歴史や伝統文化の次世代への継承を促進することも視野にいられている。



釜石魚河岸テラス全景とそこで行われたレクチャーの様子

釜石の防災教育や、復興の軌跡を伝える研修プログラムの中の自治体や町内会研修は、2011年から2014年の間に200件程あった。その内半数は静岡県、愛知県、大阪府などに出向いて地域住民向けに発信した。「釜石の奇跡」と言われた特に小中学校の防災教育をどのようにしてきたのかに関心が集まった。



当時世界最大水深の防波堤釜石港湾口防波堤はこの先の湾の開口部に設置されていた。



震災直後の釜石東中学校(左側)と 鶴住居小学校(右側)



被災した小中学校の跡地に整備された、釜石復興スタジアム(2019年ここでラグビーワールドカップの試合があった)

釜石の未来の命を守る戦いは、これからも続ける強い姿勢を感じた。

4. 盛岡市

2023年ニューヨーク・タイムズに照会された盛岡市の高い評価を得た人とのふれあいがどのようなものなのか実体験をするため赴きました。



盛岡市役所でのレクチャーの様子



盛岡市内を流れる北上川に架かる旭橋から岩手山を望む。この位置からの写真が盛岡観光ガイドブックの表紙と5月4日の朝日新聞に掲載された。



7月13日朝5時30分ころ、初老の女性が北上川に架かる開運橋東側で歩道でもくもくと除草に励んでいた。そのほかにも早朝にも関わらず清掃する人が多く見受けられ、このような行為が盛岡市民の心根と感じた。



盛岡市議会議場にて



盛岡市役所正面玄関にて

盛岡は美しい川や山に囲まれた街であり、伝統的な建物もあり地元の人とのつながりを持ちやすく観光に訪れる人を受け入れるやさしさがあり、東京や京都と違ってギスギスさがなく時間がゆっくり流れているように感じた。

環境が人を育てる「孟母三遷」の教えがある。詩人の大岡信さんも「眺望は人を養う」と言っている。大リーグで活躍している、盛岡市出身の菊池雄星や奥州市出身の大谷翔平、八幡平市出身のスキーマの小林陵侷、更には盛岡市出身の第19代総理大臣原敬を始め4人の総理大臣を輩出しているのが岩手県。やはり環境が人を育てるのかなと岩手県を尋ねて感じた。

視察後感じた特筆すべきことは、盛岡市議会事務局の職員の皆さんは、伊豆市議会議員の我々の来庁時と退庁時には殆どの職員が廊下に出てご挨拶をいただいたことが心に残りました。流石に人と触れ合いを大切にする盛岡と感じました。

追伸 全国 333 店舗を展開する「びっくりドンキー」の始まりの盛岡の店舗

